

【シリーズSDGs ②】身近なところからSDGsの取組をしましょう。

ゴール2「飢餓をゼロに」



SDGs「ゴール2は「飢餓をゼロに」を目標としています。

世界では、世界の人口の10人に1人。7億人を超える人が地球温暖化や内戦・紛争、新型コロナウイルス感染症の影響で飢餓に苦しんでいます。

一方、国内では、年間約600万トンもの「食品ロス」が発生しています。これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料援助量（2019年で年間420万トン）の1.4倍に相当します。

国民1人あたりで計算すると、お茶碗1杯分の食べ物を毎日捨てていることになります。日本で廃棄される食料が飢餓に苦しむ人々に行き渡れば…と考えると私たちも世界も飢餓と無関係ではありません。

〇行政の役割としては

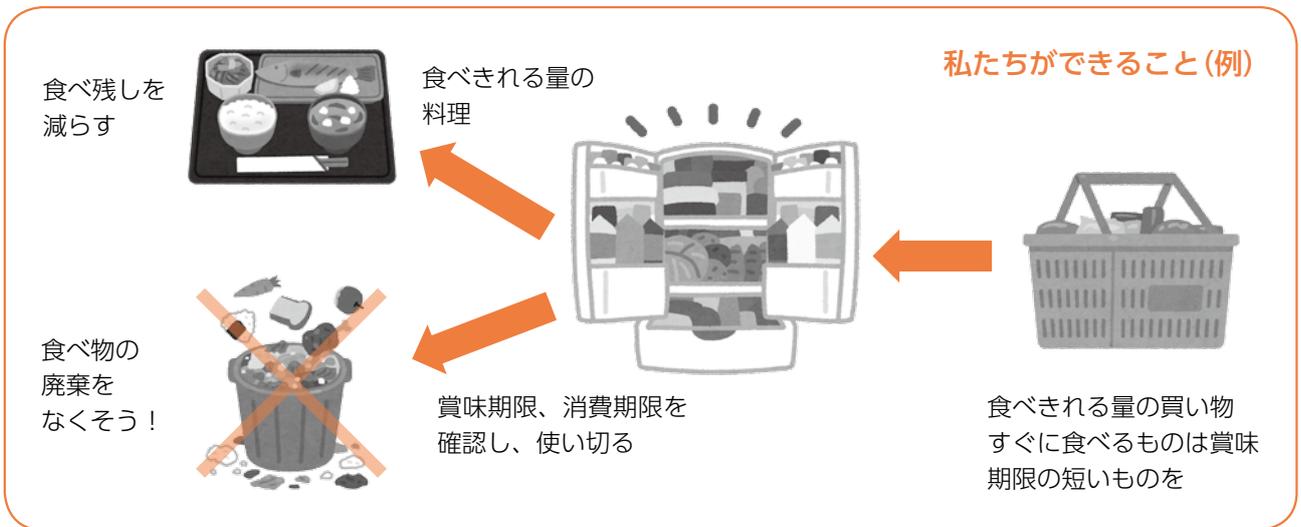
飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。

土地や水資源を含む自然遺産を活用して、農業や畜産などの食料生産の支援を行うため、適切な土地利用計画、公的・私的な土地で都市農業を含む食料生産活動を推進し、安全な食料確保に貢献する。

〇私たちができること(例)

- ・すぐ食べるものは賞味期限の短いものを選ぶ。
- ・食べ残しをなくす。
- ・食べきれない量を考えた買い物、料理をする。
- ・賞味期限、消費期限をこまめにチェックし、食材を使い切る。

2030年までの国際的な目標の実現に向け、意識を实践しましょう。



目標達成のためのターゲット

- 〇2030年までに飢えをなくし、貧しい人も、幼い子どもも、だれもが一年中安全で栄養のある食料を、十分に手に入れられるようにする。
- 〇2030年までに、食料の生産性と生産量を増やし、同時に、生態系を守り、気候変動や干ばつ、洪水などの災害にも強く、土壌を豊かにしていくような、持続可能な食料生産の仕組みをつくり、何が起きてもすぐに回復できるような農業を行う。
- 〇国際的な約束にしたがって、世界の農作物の貿易で、制限をなくしたり、かたよった取引を無くしたりする。SDGs2「飢餓をゼロに」では、上記のようなターゲットを8つ掲げており、目標達成に向けた取組を進めていきます。

※公益財団法人 日本ユニセフ協会HP引用

問 企画商工観光課 企画・SDGs推進班 ☎(72)1151